

富士のさと わくわくキャンプ (冬編)

令和3年1月10日(日)～1月11日(月) 1泊2日



○目的

子供たちが自分たちで計画した2日間を過ごし、生活リズムの向上に資するとともに、体験活動の楽しさを感じ取り、併せて子供の自主・自立の心を育てる。

○参加者

小学校4、5、6年生 3名または4名のグループ 10グループ33名

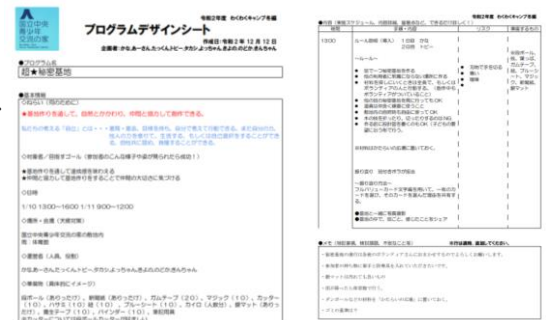
○本事業の仕組み

子供たちに自主自立を促すため、あらかじめ関係ができている状態から始めることができるよう、仲良しグループでの募集とした。また、コロナ禍により様々な学校行事が中止となっている中、思い出作りの一端も担い、「わくわく」する2日間となるようプログラムをグループごとに選択、2日間を独自の時間割で過ごした。グループごとに腕時計を持ち、自分たちで時間を管理し、行動するよう設定した。選択できるプログラムについては、法人ボランティアを中心に、プログラムを企画・立案し、当日のプログラム運営を行った。

○キャンプの企画立案

ボランティア10名と社会教育実習生8名を2つのセクションに分け、セクションごとにお互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※ねらいや手順、想定されるリスクと対応などを記載
- ・職員を交えてセクション別のミーティング
- ・全体進行表、セクション別日程表の作成 等



【プログラムデザインシート】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、職員、ボランティア、社会教育実習生、合わせて21名が担った。スタッフは前日から宿泊し、準備や試作、最終的な打ち合わせを行って参加者を出迎えた。

当日は晴天ではあったが、気温が低かったため、防寒対策を徹底し運営を行った。

○2日間の様子



はじめの会



選択プログラム①
(秘密基地づくり)



野外炊事
(食材をくじで決め、

班ごとに独自のメニューを！)



選択プログラム②
(ASOBI2021)



共通プログラム
(フォトラリー)

《参加した子供の声》 ※一部抜粋

- ・今まで参加したことのないようなキャンプで楽しかった。
- ・仲間と行動することができ、時間を守ることができた。
- ・協力しないとできないことがみんなと協力してできてうれしかった。
- ・先にグループを作ってキャンプに行くのは初めてだったからすごく楽しかった。

○キャンプを終えて

《企画ボランティアの感想》 ※一部抜粋

自主自立のもと、どの班も子供たちの意見や考えを具体的に実践してみる機会を多く持つことができたため、多くの発見を得ることができた。プログラムでも案通りではなく、そこから発展させて子供の発想を掻き立てるようなプログラムになったと思う。大人では出てこない発想を見ることができてそこも新しい発見だった。班付きでは介入しすぎず、常に子供たちの行動を見ることができた。

《成果と課題》

○成果

- ①グループ内での仲間づくりが必要なく、素早くねらいに向けた指導ができた。

仲の良いグループで募集したため、時間の管理も含めた主体的な行動を促すところまで即座に持っていくことができた。

- ②他グループ間との交流が増えた。

従前の事業では、同グループ内の仲間づくりから始めるため、グループ内での交流が主だったが、今回は他グループを巻き込み大勢で活動することを参加者が自発的に望み、交流が広がっていくことが分かった。

- ③子供たちの活動意欲が上がった。

自分たちで2日間のプログラムを選択するため、より主体的に取り組み、それぞれのプログラムの活動意欲が高かったように感じられた。

- ④事業参加へのハードルが下がった。

グループでの募集としたことで、一人では参加に踏み出せたい子供たちの障壁がなくなり、予想以上の参加申込を得た。次回以降、一人での応募が期待できる。また、学校での集団生活になじめていない子の自主的な参加もあり、体験活動の裾野をより広げることができた。

○課題

- ・グループそれぞれの個性よっての指導が必要になる。

班付きスタッフがほとんどの活動を支援することになるため、グループカウンセラーとしてのスキルを磨く必要がある。また、グループ内の人間関係等への理解を深め、個々人に合わせた対応が求められる。